

電源立地地域温排水対策事業

(大間地点)

(要約)

清藤 真樹

温排水を有効利用したアワビ増殖の可能性について検討するための基礎資料を得ることを目的として、アワビ中間育成試験及び放流アワビ追跡調査を実施した。なお、詳細は、「平成7年度電源立地地域温排水対策事業調査報告書（大間地点）」（平成7年3月、青森県）として報告した。

1 アワビ中間育成試験

- (1) 青森県栽培漁業公社の平成6年産エゾアワビ稚貝31,000個を平成7年6月13日、大間漁業協同組合水産資源中間育成施設（陸上施設）に収容し大貝区（平均殻長24.8mm、17,500個）、小貝区（平均殻長21.9mm、13,500個）の2区を設定して平成7年10月31日まで籠網内で中間育成試験を実施した。なお、餌料はすべて配合餌料とした。
- (2) 中間育成期間中の水温は13.5℃～25.0℃、平均増殻長は大貝区で8.42mm（0.060mm/日）、小貝区で7.87mm（0.056mm/日）、平均増重量は大貝区で2.76g（0.020g/日）、小貝区2.18g（0.016g/日）で大貝区が大きな値を示したが、増殻長指数（日平均増殻長÷開始時殻長×1000）は、大貝区で2.52、小貝区で2.60、増重量指数（日平均増重量÷開始時重量×100）は、大貝区で1.13、小貝区で1.20と小貝区が高い値を示した。生残率は全体で96.2%となり、平成2年試験時から90%を常に超えており、安定した中間育成の可能性が示唆された。
- (3) 中間育成を終了したエゾアワビ稚貝29,826個は、平成7年11月11日に潜水により大間町割石地先の禁漁区に全数放流した。

2 放流アワビ追跡調査

- (1) 平成6年までに大間町割石地先の禁漁区へ中間育成後放流したエゾアワビについて、平成7年11月11日、潜水により粹取り調査を行なった。
- (2) エゾアワビは調査全地点から122個が採取され、殻頂部の緑色からすべて放流貝と判断された。
- (3) 外敵生物は、イトマキヒトデが主で9地点から23個体が採取された。
- (4) 海藻は、スギモク、ヨレモク、トゲモク等が多く、アワビにとって餌料価値の低いものが大半を占めた。
- (5) 年齢解析を試みた結果、採取されたエゾアワビは平成4年放流群と考えられるものが多かった。